

B-94 被服技術検定における疲労度の研究
(第7報)

東海学園女短大 ○西条 セツ
名古屋市立女短大 高橋 春子

1. 被服技術検定にあたり、フリッカー測定器と近点計により疲労について検討した。

今回は既報のフリッカー変化型中、能率のあがらないNo. 3, No. 4, No. 6型の14名について技術検定と同条件のもとに作業させた。

2. (1) 前回は5時間作業中1時間の休憩としたが、今回は分割休憩にし15分、45分と2回にし、全作業の前後に測定を行なった。

(2) 材料は大裁女単衣で木綿浴衣地 27.7'S×30'S, 36cm×11mの縞柄使用。準備は技術検定要項によった。製作には手縫とミシン縫併用。

3. (1) 第1回15分の休憩により、既報のフリッカー変化型に多少の変化あり、疲労の回復とみられるものは28%である。その後変化型の種類により多少の差はあるが、15分の休憩が昼食後の作業に、大きくひびいてきている。

(2) 5時間作業の前後の疲労変動率は前回と今回とにかなりの差がみとめられた。

(3) 近点値においても今回の分割休憩の方が、疲労の減少した結果を示した。

すなわち精神的疲労と肉体的疲労において分割休憩が効果的であることを示したが、特に肉体的疲労の方が著しい。